

1 自己評価及び外部評価結果

(ユニット名 1階)

事業所番号	0672600350		
法人名	有限会社 葉山		
事業所名	グループホーム はやま荘		
所在地	東置賜郡高畠町大字高畠350-1		
自己評価作成日	平成 21年 10月 20日	開設年月日	平成 18年 3月 23日

※事業所の基本情報は、公表センターページで検索し、閲覧してください。(↓このURLをクリック)
(公表の調査月の関係で、基本情報が公表されていないこともあります。御了承ください。)

基本情報リンク先	http://www.kaigo-yamagata.info/yamagata/Top.do
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 エール・フォーユー		
所在地	山形県山形市檀野前13-2		
訪問調査日	平成 21年 11月 20日	評価結果決定日	平成 21年 12月 14日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

自室に閉じこもることなく、一人ひとりが笑顔で過ごせ、利用者同士の関わりを多くもてるような空間を作っている。また、地域の方々から気軽によっていただけるような場所にあり、地域の方とお茶飲みなどの交流も常に行っている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

「家庭としての温か味」を介護理念に取り入れ、雰囲気作りを大切にしながら、地域の方のお茶飲み等の交流が盛んに行なわれており、月に1度は代表者と全職員のミーティングがあり、運営に反映させている事業所です。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

山形県地域密着型サービス「1 自己評価及び外部評価（結果）」

※複数ユニットがある場合、外部評価結果は1ユニット目の評価結果票にのみ記載します。

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I. 理念に基づく運営						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎朝の申し送り時や、毎月のミーティング時に全員で唱和し、管理者、職員が一体となり理念の実践に向け取り組んでいる。	1日の流れの中で職員一人ひとりから何をしたいか言ってもらい、毎朝のミーティングで理念の唱和があり実践に繋げている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	日常的に隣近所の方々から朝晩声をかけていただいたり、野菜や花をいただいたりし、その時々で交流をしている。	町内会主催の行事が少ない為、事業所が行なう夏祭りがメインとなり、隣近所の方々やボランティア等が集まり、にぎやかな中で楽しい交流が繰り広げられている。今年は雨天の為事業所内でのカラオケ大会に変更された。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	主に 運営推進会議の席上、地域の方々に認知症についての理解や支援の方法を話している。	/		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では、利用者、家族、地域の方の出席をいただき、評価への取組みや報告を行い、話し合い、意見を頂き、サービスの向上に役立っている。	メンバーは民生委員・地区委員・役場の方等に出席してもらい、利用者には声がけし希望をとり、家族等は都合のつく方に依頼し近くの公民館で行なわれている。事業所からの報告や自己評価、外部評価への取組み等を話し合い、サービス向上に繋げている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	常に連絡を密に行い、事業所の取組みなどを理解していただいている。また、役場のかたからも、連絡があると来て頂いている。	道路を挟んで真向かいに位置している役場とは常に連絡を密にしている。介護相談員も受け入れ、随時の来訪でその都度の時間帯で利用者の生活を見守っている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、環境や利用者の状態を考慮しながら、玄関に鍵をかけない工夫や、身体拘束をしないで過ごせるような工夫に取り組んでいる	職員の連携を密にし、見守り等により玄関に鍵を掛けなくとも安全に生活していただけるよう配慮している。家庭や他の施設で拘束をされていた方が、入所した日から拘束をしないケアをしている。	拘束に関する外部研修や内部では月に1回合同での研修に取り組み、家族等に向けた説明も随時行なっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	管理者が、町の虐待防止委員会に参加し、学び、職員にも報告や勉強会を行い、事業所内はもちろん、他でも見つけたら報告するよう防止に努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	包括支援センターや、県の出先機関などと連絡をとりあい、制度について学び、必要な方には支援できるようにしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入所時に十分な説明を行ない、疑問や不安がないようにしている。改定の時も、十分な説明を行ない理解を頂き、署名捺印をいただいている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	主に運営推進会議の席上いろいろな意見を出していただき、はやま荘便りに載せるなど外部のかたにもわかっていただき、運営にも反映させている。	運営推進会議の場でも相談や要望が多数あり、意見等を出してもらい、「はやま荘便り」に載せる等外部の方にも理解してもらいながら運営に反映させている。	
11		○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月1度、代表者と全職員のミーティングを行っており、自由に意見や提案を出し運営に反映させている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は、一人ひとりの勤務状況を把握できるように毎日顔をだし、声をかけやる気を引き出している。又職員の意見により、環境整備や条件の整備をしている。		
13	(7)	○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	初任者や中堅職員などそれぞれに合った外部研修を受けられるよう年間計画を立てている。また、資格を取ろうとしている職員にもバックアップしている。	外部研修における年間計画表があり、初任者には個人差もあるがマンツーマンで1ヶ月位の期限を設け多くの事を学んでもらい、内外の研修参加後はミーティング時に伝達講習を行ない、職員の質の向上に向けた育成ができています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14	(8)	○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。	地域のグループホーム連絡協議会に参加し、意見交換を行ったり、交換実習にも参加して、サービスの質の向上に努めている。	グループホーム連絡協議会に参加しており、情報交換や交換実習に加えて、医師を呼んでの学習会等もあり、サービスの質向上に取り組んでいる。	地域や県内、また、全国の同業者とのネットワーク作りへの取り組みに期待したい。
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人が認知症などのため要望など言えないときは、家族からお聞きし、利用開始から安心して生活して頂けるよう努めている。看護サマリーや、介護サマリーなどの情報提供してもらっている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族がどんなことで困っているか、不安なことはないか、すべてお聞きすることで家族も不安なく生活できるような支援を行っている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	家族などが相談に来荘されたとき、または事前の面接などで他のサービスが適切と思われるときは、入所判定会議で充分話し合いをし、家族にも理解をいただき、対応している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	人生の先輩であることを念頭に、できないことだけをお手伝いさせて頂くという気持ちで関係作りをしている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	常に家族と連絡を密に行い、連携しながら家族との絆を大切にしている。また、行事等にも参加していただき、楽しい時間を一緒に過ごしていただいている。		
20		○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	地元の行事に参加し、馴染みの人と会う機会を増やし、馴染みの場所へ出かける機会や、気軽にお茶のみに立ち寄っていただけるような支援を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者の会話などから気の合う仲間作りができるよう働きかけたり、席を考えたりしながら関わりを持ち、支えあえる関係作りに努めている。		
22		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院や他施設へ入所後も相談に見えることがあり、支援している。在宅復帰され一人暮らしをされている方へ、時折訪問しフォローしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	毎日の関わりの中で、思いや心配などに気付き、困難な場合は、表情や動きで把握している。	日々の関わりの中で、出来ないことをお手伝いさせて頂くことや、何でも話せる雰囲気作りを大切にしながら利用者の目線に立った関わりができています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人や家族、面会に来られた友人などから情報をお聞きし、フェースシート等詳しく記入し職員で共有している。また、居宅のケアマネージャーとも連携し、サービス利用の経過の把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎月のケース会議や、ユニット会議、毎日の申し送りで、一人ひとりの状態把握している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ケース会議などで意見を出し合い、介護計画に反映させている。また、面会に来られた家族などに、相談し、現状に即した介護計画にしている。	利用者・家族等からの要望や変化に応じての見直しと共に、ケース会議で意見を出し合い、現状に即した介護計画作成となっている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日、日中と夜間の様子を個人の記録に記入し、介護日誌にも記録し、情報を共有し、介護計画にも反映させている。		

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 (小規模多機能型居宅介護事業所のみ記載) 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる				
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の老人相談員や民生委員、地区役員の方々の来訪をうけ、ボランティアの訪問を受け入れ、心豊かな生活を支援している。消防には非常時の非難誘導の指導を受け、安全な生活を支援している。又、公民館には、敬老会、行事、催しなどにも協力していただきながら支援している。			
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、かかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるよう支援している	本人と家族の希望を受け、受診できる体制を整えている。また、委託医の紹介を行い、安心してもらっている。	利用者や家族等が希望するかかりつけ医となっている。協力医の定期検診が1ヶ月1回、利用者、家族等の承諾を頂いて行ない、健康維持に対応している。		
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるよう支援している	職員は、常に主治医や委託医や、認知症の専門医に相談し、適切な受診につなげている。(医療連携はしていない。)			
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、入院治療が必要な可能性が生じた場合は、協力医療機関を含めた病院関係者との関係づくりを行っている。	早期退院や治療についての情報交換や相談に努めている。委託医や主治医との連絡を密に行い、必要であれば、協力医療機関に紹介していただき、必要な治療を受けられるようにしている。			
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、医療関係者等と共にチームで支援に取り組んでいる	本人や家族の希望を受け、医療とも相談を行い、十分な話し合いをし、適切な介護の方針を共有し、共に取り組んでいる。	看取り介護の勉強会の中で、終末期対応に向けた取り組みがなされ、利用者が安心して受け入れられる体制になっている。かかりつけ医と連携を図り、支援に取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	職員は消防署主催の救急救命の講習会等に参加している。その時々に合わせて訓練を全職員が定期的に行い、身につけている。			
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防の指導の下、全職員が身につけるようにしている。又、地域の方々の協力もお願いしている。	消防署が近隣にあり、定期的に避難訓練等を実施し、細部に渡り指導を受けている。夜間訓練はシュミレーションによる取り組みが行なわれている。家族等には「はやま荘便り」を通して連絡網を配布し、協力体制を図っている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援						
36	(14)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人生の先輩として敬い、ことばや態度で表している。	日々の関わりの中で利用者を家族のように大切にしながら支援をしている。一人ひとりの気持を大切にプライバシーを損ねることのないよう努めている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の意見や希望を自由に表出できる環境づくりやことば掛けをしている。			
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	起床時間や就寝時間、午睡など、個人のペースに合わせた支援を行っている。その日の過ごし方など、希望を表現できない方には、表情や態度から気付いていく。			
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	本人の希望に沿えるよう家族と協力し行っている。			
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事が楽しいものとなるよう、下ごしらえ、調理、味見を一緒にしたり、台所からのにおいを感じたりしている。季節の地元の食材を求めることにより、昔ながらの料理法を思い出し、会話もはずみ、楽しい食事となっている。献立等も利用者の希望を取り入れている。	大根餅、おでん等利用者が昔食べ馴れた料理をメニューに取り入れ、楽しい食事を職員と一緒に共有している。元旦参りやお盆の先祖供養等伝統を大切にしながら、利用者と共に楽しんでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養や水分が一人ひとり充分なものとなるよう、嗜好や習慣に応じた対応をしている。家族の協力の下、好みに応じた外食をすることもある。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	本人の状態や習慣に応じた口腔ケアの支援を行っている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄パターンや一人ひとりの習慣を知り、自立に向けた支援を行っている。入院中、トイレに行けなかった方が、トイレで排泄できる喜びを表した方もおられた。	排泄チェックシートを作成し、一人ひとりの利用回数、時間を把握し、言葉がけに配慮し、自立支援を促している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘が心身に及ぼす影響を理解し、個々に応じた働きかけを行い、寒天や山菜など、食物繊維の食物を利用し予防に努めている。なるべく下剤に頼らない支援を行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、事業所の都合だけで曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている	ご本人の希望を取り入れた支援を行っている。	利用者が楽しんで入浴してもらえるよう「のれん」を用いたり、気の合う同士が一緒に入り、ゆったりとくつろげる支援を行っている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	午睡の習慣や、就寝の習慣などを継続できるよう支援を行っている。又、夜間、安眠できる環境づくりに努めている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	全職員が薬について理解している。服薬困難な方には、主治医に相談し、服薬できる方法をとっている。症状の変化を見極め、主治医と相談の上、なるべく薬に頼らない支援を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	本人や家族に生活歴をお聞きし、センター方式を活用し日々の生活が生き生きとしたものとなるよう支援している。個々の趣味活動等で出来上がった作品等を展示するなどし意欲をもっていただくよう支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	本人の希望を受け入れ、外出支援を行っている。又、家族にも協力していただき、希望の場所に外出していただいている。	利用者の希望を受け入れ、可能な限り協力をし、満足の行く外出が出来るように、家族等職員が連携をもち、取り組まれている。四季折々、天候の変化に応じた外出支援がある。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人の希望があれば、能力を鑑み所持や使用について支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人の希望をかなえられるよう、支援している。古くからの友人と手紙の交流をされている方は、一緒にポストまで手紙を出しにいたり、定期的に家族と電話の交流を楽しみにされている方もおり支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	穏やかに、ゆったりとした生活ができるよう、環境を整え、混乱がない。季節を感じられるような工夫をしている。	一人ひとり居場所があり、穏やかに過ごせる空間がある。トイレの中の棚にはカーテンでの工夫がなされ、「目くばり」「気くばり」「心くばり」の気持ち良く使用出来る配慮がされている。愛犬「たろう」もホームの一員となり、楽しく、居心地の良い住まいがある。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	居間や食堂などでも気の合った利用者同士が自由に過ごしていただけるよう、配慮し工夫している。また、一人になれる場所も作っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家庭で使い慣れたものや好みのものを居室に持ってきていただき、馴染みの環境づくりを心がけている。	利用者の身の回りには、馴染みの椅子や本が並び、好みの品物があり、趣味を活かした自宅と変わらない自然な取り組みが活かされている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	安全に歩行できるよう配慮し、段差をなくし、手すりを設置している。		